



わたしの青少年赤十字

詩・100文字提案作品集

「東日本大震災」 子どもたちからの声



はじめに

青少年赤十字の大きな特色は、学校教育の中に組織され、教師の適切な指導の下で実践されていることです。

日本赤十字社福島県支部は、各学校が、青少年赤十字を通して人間尊重の精神を学び、充実した学校教育を推進していくための一つの方法として、より積極的に青少年赤十字活動を推進してほしいと願っています。

このような考えから、福島県支部では、本年度も県内の青少年赤十字加盟校の児童生徒を対象に、「詩・一〇〇文字提案作品」を募集いたしました。本年度も、海外の赤十字社から寄せられた救援金で推進されている「東日本震災復興支援推進事業」の一つとして実施いたしました。多数の優秀な作品の中から「日本赤十字社社長賞」「日本赤十字社福島県支部長賞」「青少年赤十字福島県指導者協議会長賞」「福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞」を特別賞として選び、以下、「優秀賞」「佳作」「入選」を選定させていただきました。また、受賞した作品が多数の学校には「学校賞」を、五年連続で応募された学校には「学校奨励賞」を授与させていただきました。

今年度もこれらの受賞作品をまとめ、本冊子を刊行することができました。子どもたちが未来に大きな夢を持ち、それに向けて努力する生き生きとした姿を感じ取っていただければ幸いです。

募集作品

□詩（いのちの詩・愛の詩）

人間のいのちはかけがえないもの。

そのいのちを守るために、自分や周りの人、生きものを大切にしなければなりません。そんなみなさんの素直な願いや感動を、そして未来に向けての夢・希望をぜひ詩に託して表現してほしいと願い、作品を募集しました。

□わたしの一〇〇文字提案

「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を次のテーマから選んで、自分の考えを端的に表現した作品を募集しました。

「わたしのできるボランティア」

「福島・日本・世界のためにわたしがしたいこと、できること」

「わたしが感動したことはやでござと」

はじめに・募集作品

目次

特別賞

日本赤十字社社長賞……………	5
日本赤十字社福島県支部長賞……………	6
青少年赤十字福島県指導者	
協議会長賞……………	10
福島県青少年赤十字賛助奉仕団	
委員長賞……………	11

詩「いのちの詩・愛の詩」

優秀賞……………	14
佳作……………	18
入選……………	27

一〇〇文字提案

「わたしのできるボランティア」

優秀賞……………	30
佳作……………	34
入選……………	50

一〇〇文字提案

「福島・日本・世界のためにわたしが したいこと、できること」

優秀賞……………	54
佳作……………	58
入選……………	70

一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばや できごと」

優秀賞……………	74
佳作……………	77
入選……………	87

学校賞・学校奨励賞……………

88

作品応募校……………

89

作品審査を終えて……………

90

青少年赤十字詩・一〇〇文字提案 作品 年度別応募状況・平成二十九 年度テーマ別応募作品数……………

92

審査にご協力いただいた皆様……………

93

〔表紙〕

日本赤十字社福島県支部

石田 遊星

特別賞受賞作品



日本赤十字社 社長賞

「福島・日本・世界のためにわたしが
したいこと、できること」

須賀川市立阿武隈小学校

四年 矢吹 颯

日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立表郷小学校

二年 大久保 奏

「わたしのできるボランティア」

相馬市立日立木小学校

一年 今村 清邦

「福島・日本・世界のためにわたしが
したいこと、できること」

西郷村立西郷第二中学校

二年 渡辺 紗弥

「わたしが感動したことばやでござい」

福島県立白河旭高等学校

二年 磯貝 渉太

青少年赤十字福島県指導者
協議会長賞

「わたしのできるボランティア」

会津坂下町立坂下中学校

二年 桑原 希

福島県青少年赤十字賛助
奉仕団委員長賞

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立白河第二中学校

一年 金澤 頼志

日本赤十字社 社長賞

「福島・日本・世界のために

わたしがしたいこと、できること」

須賀川市立阿武隈小学校 四年 矢吹 颯

「フクシマ」は、きれいです。

カタカナで書くと、放射能でよごれているようです。

ぼくが住んでいるのは、「福島」です。

山も川も鳥も虫もぼくも、元気です。

学校も楽しい。

こんな福島のことを見てもらいたいです。

日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立表郷小学校 二年 大久保 奏

「だっこして」

はずかしいけど

おとうさんのあぐらの中にすっぽり入ると

体がよろこぶよ。

そーっと、おとうさんのかおを見たら目が合って

ぼくは生まれてきてよかったと思うんだ。

「わたしのできるボランティア」

相馬市立日立木小学校 一年 今村 清邦

しょくじゅさい

あめがふって

どろだらけだけど

うまくうえられた

こうようグラウンドに

いくと

ぼくはかならず

みにいくよ

ぼくがうえたき

ぐんぐんおおきく

なるように

「福島・日本・世界のために

わたしがしたいこと、できること」

西郷村立西郷第二中学校 三年 渡辺 紗弥

「支え合う」それが私の好きな言葉です。

お風呂を貸してくれる親戚。

それに、食べ物を分けてくれる近所の人。

支え合うことがどれだけ温かいかを知りました。

だから、私も人を温かな気持ちにさせたいと強く思います。

「わたしが感動したことばやできごと」

福島県立白河旭高等学校 三年 磯貝 渉太

私には被災した親戚がいます。

彼は八十二歳です。

漁師として働いていましたが、今はできません。

彼は今、福島県のもので酒づくりに挑戦しています。

彼は高齢にして新たな人生への第一歩を踏み出したのです。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

「わたしのできるボランティア」

会津坂下町立坂下中学校 二年 桑原 希

日本舞踊の会で小一から年に数回、老人ホームに慰問しています。

踊り終わると、目に涙をためて私をじっと見つめ、

「ありがとう」の思いの込もった手のぬくもり…

私の成長を見守ってくれているような思いを感じます。

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

「いのちの詩・愛の詩」

白河市立白河第二中学校 一年 金澤 頼志

私は

ある時は揺れに耐えた。

じっと立たずむ…

今宵も、

風の匂いが変わっても。

月の光を背に浴びて

多くの命が

皆の声に

それぞれの思いで

耳を澄ませよう。

私を見つめ、語りかけ、

そして去って行った。

私は、小峰城

ある時は風雨に打たれ

詩
「いのちの詩・愛の詩」



「いのちの詩・
愛の詩」

優秀賞

福島市立福島第一小学校

一年 佐久間啓太

二年 阿曾 至

福島市立湯野小学校

六年 相田 彩羽

郡山市立富田東小学校

五年 志田 柚季

白河市立大信中学校

三年 佐藤 花純

学校法人尚志学園尚志高等学校

二年 佐々木玲奈



「いのちの詩・愛の詩」優秀賞

福島市立福島第一小学校 一年 佐久間啓太

おばちゃんはすごい。

こしがまがつて、

ぼくよりちいさくなったおばちゃんは、

たくさんのおやさいをつくっていて、

それをぼくたちにくれる。

いっしょにとったとうもろこし

おいしかったよ。

たかいところは

ぼくがとるよ。

福島市立福島第一小学校 二年 阿曾 至

ぼくの手は、小さいです。

お父さんの手は、大きいです。

お母さんの手は少し大きいです。

いつか、ぼくの手も大きくなって、

いろいろな人をたすけられるといいな。

福島市立湯野小学校 六年 相田 彩羽

あったらいいなこんな募金。

ピンクの羽根募金。

体の不自由な子どもを助ける募金。

虹色の羽根募金。

世界から戦争をなくして、

みんなが平和にくらせる募金。

あったらいいな。

郡山市立富田東小学校 五年 志田 柚季

庭で見つけたいい虫。

調べてみると、ツマグロヒヨウモンと

いう蝶の幼虫だった。毒はないが、パン

ジーを食い荒らす害虫だ。

その虫も、庭を訪れる鳥達によって姿

を消した。

花、虫、鳥。命は巡る。

感じる、命のつながりを。

白河市立大信中学校 三年 佐藤 花純

私が生きていると感じる時
楽しくてみんなで笑い
うれしくて思わず声を出し
悔しくて涙を流し
怒って手がふるえる時
私が生きていると感じる時
感情をみんなで共有し
手を差しのべ合い
その手が触れた時
そして
そのぬくもりを感じた時

学校法人尚志学園尚志高等学校 二年 佐々木玲奈

健康なおばあちゃんと認知症のおじい
ちゃん。
話しかけてもあまり応じないおじいちゃ
んに、昔のように話しかけるおばあちゃ
ん。
腰の曲がったおばあちゃんが、毎日おじ
いちゃんの介護をしている姿に、深い愛
を感じた。

「いのちの詩・
愛の詩」

佳
作

福島市立福島第一小学校

二年 佐藤 凜

福島市立庭坂小学校

一年 吉田 夢彩
一年 渡邊 乃咲

伊達市立堰本小学校

三年 小賀坂都葵

郡山市立桃見台小学校

二年 渡邊 耀斗

郡山市立富田東小学校

三年 枝並 克幸
四年 二瓶 陽向

郡山市立富田西小学校

二年 宮本 悠矢
四年 鈴木 陽士
六年 増子 沙紀
六年 廣瀬 夏凪

須賀川市立稲田小学校

五年 橋本 真佳

須賀川市立柏城小学校

六年 佐藤 春菜
六年 渡辺 叶望

白河市立表郷小学校

五年 緑川 侑空

新地町立福田小学校

六年 佐藤 智子

相馬市立磯部小学校

六年 寺島 美緒

浪江町立浪江小学校

四年 三瓶 晴奈

いわき市立郷ヶ丘小学校

六年 渡邊 凜

福島市立福島第一中学校

一年 佐藤ひなた

一年 松原 百花

二年 高橋 舞衣

二年 福王寺孝重

郡山市立郡山第六中学校

三年 関根 優香

白河市立白河第二中学校

一年 近藤 奏音

西郷村立西郷第二中学校

三年 森 あすか

三年 松本 優輝

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

二年 細川 幸香

福島県立白河旭高等学校

二年 室井 結衣

『いのちの詩・愛の詩』佳作

福島市立福島第一小学校 二年 佐藤 凜

わたしはりんとうまれてよかった。
たっくんの妹でよかった。
みくの妹でよかった。
ゆうの妹でよかった。
みんながいてよかった。

福島市立庭坂小学校 一年 渡邊 乃咲

ともだちがなくてたよ。
だいじょうぶ？とこえをかけたよ。
そしたら、そのこはえがおになったよ。ひとがわらうとうれしくなるよ。
やさしいきもちが、じぶんにかえってくるんだよ。
うれしくなるんだよ。

福島市立庭坂小学校 一年 吉田 夢彩

おひさまさん
あたたかいひかりをありがとう
おつきさまさん
よぞらをてらしてくれてありがとう
わたしもふたりのように
みんながえがおになるようなひとになりたい

伊達市立堰本小学校 三年 小賀坂都葵

ぼくには弟がいる。
いつもちよっかいをだしている。
小さいからわるさもする。お母さんがちゅういすると、大きなきする。
ぼくのところに手をひろげて走ってくる。
そんな弟が大好きだ。
ずっとおれがついているよ。

郡山市立桃見台小学校 二年 渡邊 耀斗

ぼくのともだちには、
おりがみがとくいな子。てつぼうがとくいな子。字がじょうず
な子。

足がはやい子。

いろんなともだちがいる。

ぼくは、なにがとくいだろう。

そうだ。

えがおだけはみんなにまけないよ。

郡山市立富田東小学校 四年 二瓶 陽向

あったかいね
お父さんの大きな背中
あったかいね
お母さんのやわらかいうで
あったかいね
ねこのピーのフワフワ毛皮
あったかいね
生きている幸せ

郡山市立富田東小学校 三年 枝並 克幸

ぼくの名前は

お父さんとお母さんから一文字ずつもらった

幸の字は、じいちゃんからも、もらった

名前といっしょに

みんなからもらった

いのち

たいせつにしよう

郡山市立富田西小学校 二年 宮本 悠矢

赤ちゃん

だっこすると

ふわん ふわん

さわってみると

ぷにゅ ぷにゅ

あったかあい

すきだよっていうと

ぼくもだよって

わらってくれる

かわいいおとうと

郡山市立富田西小学校 四年 鈴木 陽士

お父さんおこる
お母さん口うるさい
お兄ちゃんけんかする
弟落書きする
だけど
みんなといると
楽しい
なんだかんだで
好きなんだな

郡山市立富田西小学校 六年 増子 沙紀

あの日の私は
おく病で こわがりで
守られてばかりで
何もできなかった
でも
それでいいのかな
何もできなくても
何かはできるよね
あの日とはちがう
私になれるよね

郡山市立富田西小学校 六年 廣瀬 夏凧

マロンのゆれるしっぽ
何も見えなくても
何も聞こえなくても
近づくとゆれるしっぽ
十四才の老犬マロン
しっぽがゆれると
今日も大丈夫って
もっとゆれると
明日も大丈夫って
マロンと私の合言葉

須賀川市立稲田小学校 五年 橋本 真佳

カブトムシの
卵を見つけた。
わずか数ミリ。
成虫になるかな。
ぼくは、育てたよ。
大事に、大事に。
やった！
ふ化したぞ。
どんなに小さくても、
力強く生きているんだ。
よし、ぼくもだ。

須賀川市立柏城小学校 六年 佐藤 春菜

ありがとう
ごめんなさい
こんにちは
その一言で
愛が生まれる
だから
一つ一つ大切な言葉
今から未来へ
うけつがれていく
大切なバトンだ

須賀川市立柏城小学校 六年 渡辺 叶望

私が生まれたときの写真、
お父さんとお母さんがうれしそうに笑っている。
弟が生まれたときの写真、
私も一緒に笑っている。
新しいいのちは、みんなが愛と笑顔であふれている。
しあわせ。

白河市立表郷小学校 五年 緑川 侑空

つらくて、悲しくていやなときには自分にこう言い聞かせるんだ。
「泣いてもいい、なやんでもいい。大切なのはくじけないことだ！」
わたしは一人ぼっちじゃない。生きている。＼こう言い聞かせて今日という日を、この大地を歩いているとわたしは思う。

新地町立福田小学校 六年 佐藤 智子

あの日
サイレンが鳴りひびく日
泣いていた日
あの海の怒りは
もう二度と、
経験したくない
命の大切さを
初めて 知った日

相馬市立磯部小学校 六年 寺島 美緒

笑って泣いて後悔して、
苦しいなって思っ
て、
やめたいなって思っ
て、
挫折する。
でもそれが人間。
それが人生なんだ。
何回も挫折して立ち上
がって、また、前を向
く。
そんな人間の人生を歩
みたい。

浪江町立浪江小学校 四年 三瓶 晴奈

いのちは田のようにつ
ながっている。
わたしは、牛やぶたや
魚や野菜のいのちを
もらって生きてい
る。
だから、「ありがとう」「
いただきます」をわす
れない。
大切ないのちをつな
いでいきたい。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 渡邊 凜

私は学校が楽しい！
友達と遊んだり、教
え合ったり。
毎日が楽しい。
私には、言い合える、
助け合える友達が
いる。
そう思うと、何だか
心がポカポカして
楽しくなる。
学校へ来て友達を
見ると感じる。
私は生きている――と。

福島市立福島第一中学校 一年 佐藤ひなた

空を見上げれば
いつもつながっている
苦しくても
悲しくても
一人じゃない
今わたしは生きている
夢を持ち
希望を持ち
歩き続けよう。
未来への道

福島市立福島第一中学校 一年 松原 百花

トクトク トクトク
心臓の音
ドクドク ドクドク
いのちの音
人も、動物も、皆同じ
トクトク ドクドク
生きているあかし
大切な音
いつか私も
つなげていきたい

福島市立福島第一中学校 二年 高橋 舞衣

今まで、愛なんてものはわからなかった。
愛なんていらなそうと思ってた。
でも、大きい地震がきたあの日、
私が無事だと知った家族はみんなよろこんでくれた。
愛って、
きつとこういうもののことを、言うんだろな。

福島市立福島第一中学校 二年 福王寺孝重

ありがとうも五文字
こんにちはも五文字
さようならも五文字
すべて五文字から始まっている。ほんの少しの言葉からはじまるあいさつ。ほんの少しの勇気からはじまる。これから違う日常になるかもしれない。

郡山市立郡山第六中学校 三年 関根 優香

生きている理由を探していた、
私はいつも一人だ、
誰かが私の肩をたたいた、
私が後ろをふり向くと家族の笑顔があった。
そうか、あったね生きている理由。
私に理由を愛をくれてありがとう。

白河市立白河第二中学校 一年 近藤 奏音

たった一つの
ありがとうで
人は優しさを感じる
たった一つの
がんばれで
人は幸せを感じる
たった一つの
何かで
人は人生を
大きく変える

西郷村立西郷第二中学校 三年 森 あすか

東日本大震災が起こったあの日、私は引越した。
親友と離れ、いつも一人でいた私に、
一通の手紙が届いた。
私はうれしかった。
最後の一文を読んで涙がでた。
「前みたいにならずと一緒だよ」

西郷村立西郷第二中学校 三年 松本 優輝

私は今でも覚えている。
あの東日本大震災直後、
再会した両親の顔を見て泣いたこと。
安心のあまり、崩れ落ちたこと。
「大丈夫」の声に導かれるように、あの日乗り越えたこと。
そんな親に、私はなりたい。

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校 二年 細川 幸香

山が美しい
川がきれい
これが私の自慢できる
大好きなふるさと
人はみんな優しい
笑顔であふれてる
これが私の自慢できる
大好きなふるさと
もとに戻れるように
私も頑張るよ

福島県立白河旭高等学校 二年 室井 結衣

「頑張って」ではなく

「一緒に頑張ろう」

「大丈夫？」ではなく

「辛いよね」

すこし言葉を変えるだけで

あなたの言葉で救われる人がいる

言葉は誰もが使える魔法だ



『いのちの詩・愛の詩』入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

一年 大木 恵愛
一年 穴戸梨央菜
一年 谷口 晃
二年 近野 釉理

二本松市立二本松南小学校

四年 菅野 鳳雅
四年 松山 穂香
五年 池下 萌果
五年 前野奈々恵
六年 小峰 愛理
六年 西坂 雅
六年 佐藤 智也
六年 市川 鉄心

福島市立庭坂小学校

一年 齋藤 萌杏
一年 中原 勇斗
一年 渡辺アリス
一年 佐々木 蓮
一年 玉根 亮
一年 早坂 茉愛
三年 梅津 悠矢
四年 清野 綾生

郡山市立桃見台小学校

三年 鈴木悠一郎
五年 坂本菜々美

郡山市立富田東小学校

三年 齋藤 想

伊達市立堰本小学校

一年 原田 葵
六年 野田 峻亮

郡山市立根木屋小学校

三年 遠藤 暖士

須賀川市立阿武隈小学校

四年 石澤 果怜

須賀川市立柏城小学校

三年 荒川 隼人
四年 横田ひより
四年 門馬 英汰
六年 滝川 実優

鏡石町立第一小学校

五年 會田 誠司
五年 遠藤優李香

白河市立みさか小学校

四年 八代琉優斗

白河市立表郷小学校

四年 荒井 大翔
五年 藤井 友南
五年 鈴木 佑絃

矢祭町立矢祭小学校

四年 沼端 夢陽

会津若松市立荒館小学校

六年 横山 城

新地町立福田小学校

五年 佐藤 芭菜

新地町立新地小学校

五年 目黒 綺衣
五年 目黒 美琴

新地町立駒ヶ嶺小学校

三年 阿部 尊紀

相馬市立磯部小学校

三年 荒 和花
六年 狩野 璃李

相馬市立日立木小学校

一年 草野 雅治
一年 亀岩 未愛
二年 菅野 星来
三年 渡邊 友哉
三年 牛渡陽菜理
三年 山田 琴美
四年 今村理太郎
四年 横山 斎
五年 前田 レン

南相馬市立高平小学校

四年 天野 莉帆
五年 前田 峻佑

白河市立白河第二中学校

一年 松木 奏依

いわき市立草野小学校

六年 相田 瑞葵
六年 佐々木陽成
六年 田中康一郎
六年 藤谷 心美
六年 砂川 來海

白河市立大信中学校

一年 円谷 琉希
二年 大越萌々香
二年 佐藤 綾音

西郷村立西郷第二中学校

三年 新田 優希

いわき市立綴小学校

六年 吉田 咲花

喜多方市立高郷中学校

一年 和田 紀香
三年 清野 花香

福島市立福島第一中学校

一年 佐久間亜紀
一年 及川 優奈
二年 山田 萌愛
三年 野崎 靖葉

学校法人松韻学園福島高等学校

二年 森 龍太郎

福島県立白河旭高等学校

一年 邊見 結衣
二年 大須賀萌伽
三年 稲葉 美月

須賀川市立第三中学校

二年 樽川 史弥
二年 小川 凌汰

浅川町立浅川中学校

一年 市川 滯里

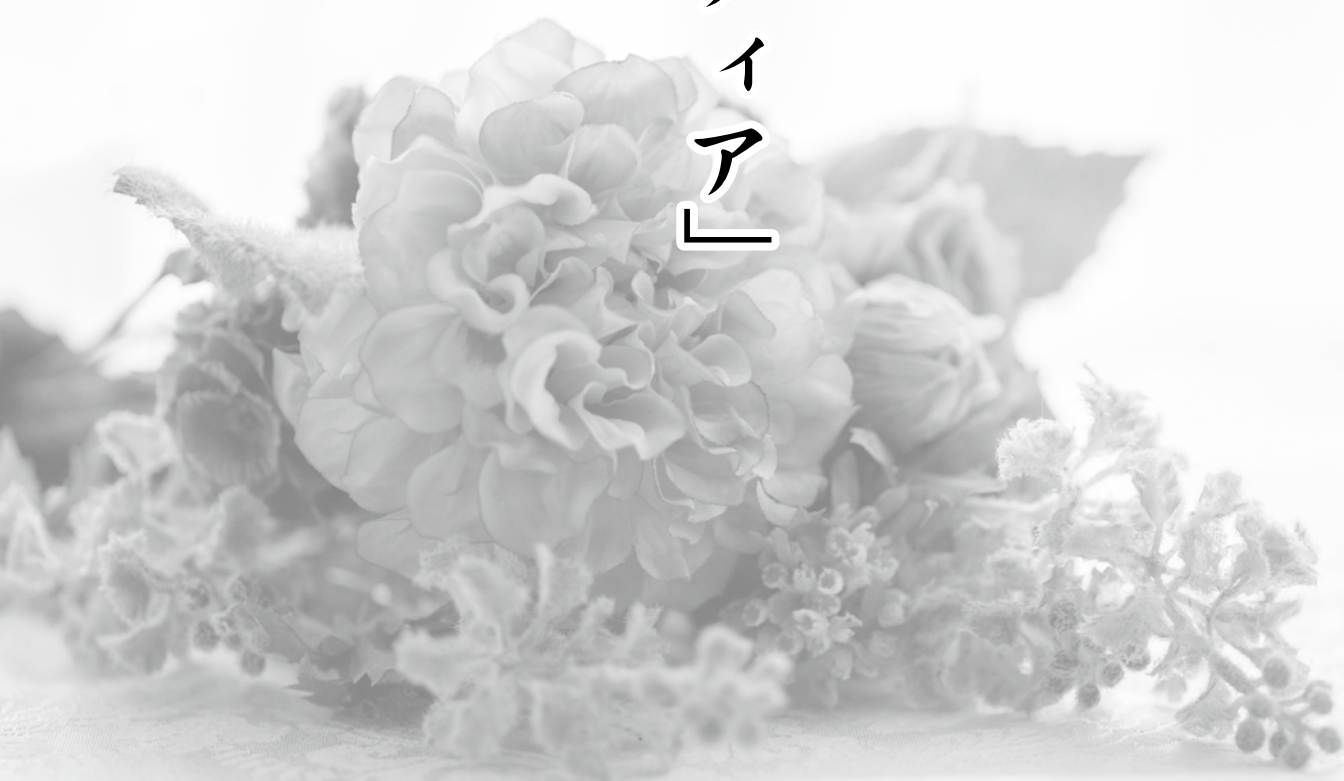
学校法人尚志学園尚志高等学校

二年 菊池 百咲



一〇〇文字提案

「わたしのできるボランティア」



「わたしのできる
ボランティア」

優秀賞

福島市立野田小学校

五年 畑中 魁翔

福島市立庭坂小学校

一年 佐藤 史悠

須賀川市立柏城小学校

六年 満山 菜々羽

新地町立福田小学校

一年 塩沼 雄哉

新地町立新地小学校

三年 齋藤 結望

白河市立白河第二中学校

三年 加藤 慶大



「わたしのできるボランティア」優秀賞

福島市立野田小学校 五年 畑中 魁翔

ぼくはね

小さい子に

やさしくするんだ

やさしく手をにぎって

やさしく声かける

ぼくは お兄さん

小さい子がいたら

きちんとみるんだ

それが、ぼくの

ボランティア。

福島市立庭坂小学校 一年 佐藤 史悠

ぼくは、まだちいさい。

もし、めのまえでこまっているひとが

いても、はずかしくてこえをかけられな

いとおもう。

でも、もしゴミがおちていたらゴミば

こにすてることはできる。

ちいさいぼくの、ちいさいでできること。

須賀川市立柏城小学校 六年 満山菜々羽

私は、プルタブ集めをしたいです。

プルタブを集めて車いすと交かんす

れば足が不自由な人のためになるから
です。

ボランティアは、お金では買えない」あ

りがとう」の言葉がもらえて、すてきな

ものです。

新地町立福田小学校 一年 塩沼 雄哉

ぼくは、しょうがいじデイサービスの

ボランティアをやりました。

いちごがりをいっしょにやって、ぼくの

おにいちちゃんにいちごをとってわたしま

した。

そばにいて、いっしょにたのしむこと

が、ぼくのボランティアです。

新地町立新地小学校 三年 齋藤 結望

みんなにやさしく、いざというときた
よりにされる自分。

けんかがあった時、何があったか聞い
て話し合える自分。

分からない問題を教えてあげられる
自分。

そんな自分に成長することが、みんな
のためにできることだ。

白河市立白河第二中学校 三年 加藤 慶大

僕は、夏休みに行く新白河駅前のボラ
ンティア清掃に、毎年参加しています。

帰省した人や、白河を訪れた人が駅に
降り立った時に、高原都市白河のさわや
かさや、復興した姿を感じとってほしい
と願いながら行っています。

「わたしのできる
ボランティア」

佳
作

福島市立福島第一小学校

三年 佐藤 迅

四年 渡邊 花菜

六年 高橋 佑風

福島市立庭坂小学校

一年 齋藤 廉温

一年 関 花恋

三年 神田 夢生

三年 高野 佳菜

六年 梅津 妃菜

伊達市立堰本小学校

二年 高橋あゆみ

郡山市立桃見台小学校

一年 千葉 優奈

五年 稲田 朱峯

郡山市立富田東小学校

三年 伊藤 叶

三年 海藤 佑斗

四年 小野 莉瑚

五年 澤田 茉奈

郡山市立富田西小学校

六年 竹内愛衣菜

須賀川市立小塩江小学校

四年 佐久間百花

四年 塩田 海惶

須賀川市立柏城小学校

五年 保志 向葵

六年 有我ひなた

鏡石町立第一小学校

六年 伊藤 すず

白河市立表郷小学校

四年 根本 悠生

新地町立新地小学校

四年 高野 育恵

五年 長内 柚杏

五年 水戸 輝

新地町立駒ヶ嶺小学校

三年 大橋 悠叶

五年 大坪 凌誠

相馬市立磯部小学校

三年 土屋 徹馬

四年 蛭原 里桜

四年 矢澤 優那

相馬市立日立木小学校

一年 青田妃茉莉

三年 佐藤 楓太

四年 丸山 凜白

南相馬市立高平小学校

四年 吉田 麻凜

五年 阿部 友葉

六年 穴戸 涼介

いわき市立郷ヶ丘小学校

六年 田口 城聖

六年 室 隼人

六年 鈴木 創嵐

六年 渡邊 美優

六年 永島 沙菜

六年 佐竹 史織

六年 宮澤 祐樹

福島市立福島第一中学校

一年 穴戸 朋華

一年 菅野 文香

三年 齋藤 陽大

郡山市立郡山第六中学校

三年 猪上 椋太

須賀川市立第三中学校

二年 柏倉 嘉乃

西郷村立西郷第二中学校

一年 内堀 日向

二年 鈴木 奏七

喜多方市立高郷中学校

二年 小柴丞二朗

いわき市立藤間中学校

三年 長瀬 和真

福島県立白河旭高等学校

一年 藤田 悠介

二年 江尻さくら

福島県立平支援助学校

三年 茨木 優太

三年 三浦 宰



『わたしのできるボランティア』佳作

福島市立福島第一小学校 三年 佐藤 迅

ぼくのお母さんの会社では、ペットボトルのキャップを集めていて、二キロ位集めるとワクチン一人分になるそうです。すててしまえばゴミなのに、集めればだれかの役に立てるなんてすごいとおどろきました。ぼくもできることからボランティアにさんかしたいです。

福島市立福島第一小学校 六年 高橋 佑風

私は、飼い犬の散歩の時のゴミ拾いが、私が身近にできるボランティアだと思っています。ゴミが落ちている道を歩くと、悲しい気がします。私が住んでいる街に訪れた人が気持ちよくなれるよう、ゴミ拾いを頑張りたいです。

福島市立福島第一小学校 四年 渡邊 花菜

テレビで見たまずしい国では、私より小さな子が茶色い水を飲んで病気にかかっていました。私がしてあげられる事は、エコキャップを集める事。それが私に出来る小さなボランティアです。

福島市立庭坂小学校 一年 齋藤 廉温

ぼくにもできるばらんていあは、べるまあくをみつくて、あつめることです。べるまあくは、こまってるひとをたすけることができます、おかあさんからきいたからです。べるまあくをみつけると、うれしくなります。

福島市立庭坂小学校 一年 関 花恋

わたしは、ようちえんのときに「おにぎり一こさんどう」をやりました。

ごはんのおかずをがまんして、そのおかねをたべられないこともたちにきふするものです。
がまんするのはたいへんでしたが、やってよかったです。

福島市立庭坂小学校 三年 神田 夢生

ぼくのおじいちゃんは、ボランティアでえきのトイレやかいだんのそうじをしています。ぼくも、お手ついで、かいだんをほうきではいたりします。
みんな気もちよく使えるように、これからもおそうじをつづきたいです。

福島市立庭坂小学校 三年 高野 佳菜

わたしは、入学してから今まで、家ぞくみんなでエコキャップをあつめています。

学校に持って行く時に、わたしは、「びょう気の人の役に立つといいね。」と、お母さんやお姉ちゃんと話しています。

福島市立庭坂小学校 六年 梅津 妃菜

私達だれもができるゴミ拾いのボランティア。ゴミ拾いをすること、地域に笑顔とキレイが待っている。少しのゴミ拾いで、キレイだねと、笑顔あふれるぴかぴか福島市が待っている。まっけてねぴかぴか福島！

伊達市立堰本小学校 二年 高橋あゆみ

わたしができるボランティアは、おばあちゃんがつえをわすれたときに、手をつないでいっしょにあるいてあげることです。お話をするときには、大きなこえでゆっくり話すことです。

郡山市立桃見台小学校 五年 稲田 朱峯

お花でかせつじゅうたくの人を笑顔にすることです。学校では、きれいな花をそだてていて、それをプレゼントしています。そうすると紙飛行機をくださって、その紙飛行機はすぐく飛ぶので、わたしはすぐくうれいします。

郡山市立桃見台小学校 一年 千葉 優奈

おじいちゃんのしんぞうがとまって、しゅじゅつをしました。そのときに、ゆけつをしておじいちゃんはたすかりました。ゆけつは、けんけつでいただいたものだとききました。わたしもけんけつをしてだれかをたすけたいです。

郡山市立富田東小学校 三年 伊藤 叶

わたしが考えるボランティアは、とくべつむずかしい事をするのではなく、日ごろから意きして、お年よりや小さい子、体や心にしょうがいを持った人たちに、え顔で話しかけやさしくお手つだいし、みんなを元気にする事です。

郡山市立富田東小学校 三年 海藤 佑斗

六月に、お父さんといっしょに町内会のごみひろいに行ってきました。朝早くおきて、近所の人たちとごみひろいをしました。ごみがけっこうあっておどろきました。こういうボランティアならぼくにも出来ると思いました。

郡山市立富田東小学校 四年 小野 莉瑚

私は、買い物をするといつもぼ金箱を見る。だれかこまっているの？森があらされているの？そう思うとおさいふから十円を出し、ぼ金箱に入れる。たくさん金はできないけど、私のお金で元気になる人や森をささえたい。

郡山市立富田東小学校 五年 澤田 茉奈

私のひいばあちゃんは九十一さいです。屋内ではつえ、屋外では車いすを使っています。私が赤ちゃんのころたくさん手伝ってくれたので、今度は私がひいばあちゃんを手伝い、楽しい日をすごせるよう助けてあげたいです。

郡山市立富田西小学校 六年 竹内愛衣菜

私が思うボランティアは、お年寄りのゴミ捨てを手伝うことです。ゴミを置いておくと、子供たちが集めて捨てるということです。安否確認できるし、コミュニケーションがとれるので、この方法がいいと思いました。

須賀川市立小塩江小学校 四年 佐久間百花

ボランティアって、むずかしそう。
でも、人のためになることがボランティアなら、わたしは、困っている人や悲しんでいる人に、やさしく声をかけよう。
だって、私も声をかけてもらって、元気になったから。

須賀川市立柏城小学校 五年 保志 向葵

震災のとき、多くの人が支えてくれた。だから今度はわたしの番。みんなのためになることは、進んで取り組みたい。
そして、震災でまだ元の生活にもどれていない人が、元通りになり笑顔であふれた福島を築いていきたい。

須賀川市立小塩江小学校 四年 塩田 海慍

ぼくができるボランティアは、ゴミをひろうことかな。ゴミがなければ世界中がきれいになるからね。
ひろうことも大切だけれど、もっと大切なのは、すてないことだと思うよ。
だから、みんなにも教えてあげよう。

須賀川市立柏城小学校 六年 有我ひなた

私ができるボランティア
ゴミ拾いしかないけど楽しいよ。
友達とやると、もっと楽しいよ。
うれしい楽しいすっきりだ。
毎日やると、毎日きれい。自然も増える。

鏡石町立第一小学校 六年 伊藤 すず

私は育成会で行われているゴミ拾いや廃品回収に参加している。

町のなかのそれぞれの地区で行われていることなので、町がキレイになっていく。そう思うと朝早くからの活動もがんばれる。これからも、がんばりたい。

新地町立新地小学校 四年 高野 育恵

私ができるボランティアはあいさつ運動です。あいさつは、会話と会話のおしゃべりで心がほんわかするからです。

私のそ父は、見守り隊として小学校の子達にあいさつしています。これからも、元気なあいさつをします。

白河市立表郷小学校 四年 根本 悠生

わたしは、通学バスの中で、お年よりの方やにんぶさんを見かけたら、進んで、席をゆずるようにしています。

これをする事が、わたしの出来るボランティアです。これから、続けていききたいと思います。

新地町立新地小学校 五年 長内 柚杏

私は祖母と一緒に老人ホームへ行き、お年寄りの方とお話をします。学校生活の事など、短い時間の中でもみなさん笑顔になってくれます。

そんな表情を見ると、これからも交流を深め元気になってもらいたいなと思います。

新地町立新地小学校 五年 水戸 輝

朝、友だち、先生に、
「おはようございます。」

友だちも先生も、

「おはようございます。」

にっこり いい顔。

ぼくも、

にっこり いい顔。

うれしいな。

気持ちいいな。

新地町立駒ヶ嶺小学校 三年 大橋 悠叶

ぼくは、毎年九月にろう人ホームへ行って、日本ぶようをひろうしています。お年よりの方は、え顔で見てくれています。

元気になって、長生きしてもらえように行きます。

これがぼくのできるボランティアです。

新地町立駒ヶ嶺小学校 五年 大坪 凌誠

ぼくは他国で戦争している国をテレビや本で見た事があります。

ぼくは、「この人たちを助けたい。」という思いでボランティア委員会に入りました。

一学期集めたユニセフ募金は、今とどいて喜んでいるのでしょうか。

相馬市立磯部小学校 三年 土屋 徹馬

ぼくは、五月三十日に、ぼう災林しよくじゅをしました。

マツのなえを一本一本でいねいにうえました。大きくそだつてぼくのたいせつな町を、つなみからまもってほしいです。

相馬市立磯部小学校 四年 蛭原 里桜

私ができる事は、地域の方とふれあって、お話をしたり、草むしりを手伝ったりすることです。

この前、長屋のおばあちゃんたちの肩もみをしてあげたら、すごく喜んでくれました。

その笑顔は、すてきでうれしくなりました。

相馬市立日立木小学校 一年 青田妃茉莉

かぞくのためにできること。

あらいもの。

かたもみ。

おふろそうじ。

ともだちのためにできること。

いっしょにあそんであげること。

相馬市立磯部小学校 四年 矢澤 優那

わたしが出来る事は、お年よりの人や体の不自由な人のお手伝いをすることです。横断歩道を渡る時いろんな事で困っている時に、私から手を差しのべたいです。そして、自分の心と、相手の心を、ポカポカにしたいです。

相馬市立日立木小学校 三年 佐藤 楓太

ぼくは大人になったら、けん血に行きたい。なぜなら、けん血は人のいのちをたすけるものだから。

ぼくの少しの血で、だれかのいのちをたすけることができた

ら、ぼくは、うれしい。

相馬市立日立木小学校 四年 丸山 凜日

ぼくのお父さんは、消ぼうだんに入っています。しんさいの時にすぐ、がれきのかた付けやひさいにあった人たちを助けていました。

ぼくもその話を聞いて、ごみがあつたらひろおう、こまってる人がいたら助けようと思いました。

南相馬市立高平小学校 五年 阿部 友葉

私は、お年寄りをサポートしたいです。

介護教室でお年寄りの大変さを学んだからです。

お年寄りの人がいたら寄りそったり一緒に歩いたり声をかけたりして、お年寄りを安心させてあげたいです。

南相馬市立高平小学校 四年 吉田 麻凜

言葉には力がある。友だちに「おはよ」っていうと「おはよ」

っとえ顔でかえしてくれる。

なぜか勇気がわいてくる。

わたしは「言葉ってすごい」って思った。

まい日、心をこめて、あいさつをしよう。

南相馬市立高平小学校 六年 穴戸 涼介

東日本大震災。この時ぼくは、命の大切さを知った。それは誰でも同じ。

今、九州で自然災害がおきていて、再び命の大切さを思い出した。

ぼくは、明るく生きて、今悲しんでいる人もぼくが元気づきたい。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 田口 城聖

六年前の東日本大震災の時、避難したぼく達に家電などを支えんしてくれた人がいた。

日本では毎年のようにどこかで災害が起きている。

今後はぼく達が募金などをして、恩返しをしていきたい。笑顔を取りもどすために。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 室 隼人

僕は、東日本大しん災にあった。思いたすだけで心が痛む。

無数の人が津波にのまれ、死亡した。

熊本地しんの時、僕はたくさんの募金をした。

世界にも目を向け、たくさんの人々を救えた。

僕の思いが届いて、嬉しい。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 鈴木 創嵐

台風や津波、土砂災害で被害にあってしまった人たちのために、学校では、ぼくを集めて、困っている人たちを助けています。

ぼくの力は小さいけれど、友だちみんなで、力を合せてがんばれば、大きな力になれるはずだ。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 渡邊 美優

一人ぼっちだった私に、いっしょに泣いてくれた友達。こんな私でも、大切に思ってくれる人がいた。私は、涙が出る程うれしかった。

今度は私が、こまっている人や、なやんでいる人を助けて、笑顔にしてあげたい。

顔にしてあげたい。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 永島 沙菜

世界には戦争や貧困で学校が無い地域があります。そんな世界の子供達に、思い出のつまったランドセルや文房具を届けています。

将来を担う仲間達の生涯をボランティアしたいと思っています。今が、その一歩です。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 佐竹 史織

学校で行っているエコキャップやプルタブ集め。

このたったひとつやふたつのエコキャップやプルタブがたくさん集まると、何千人、何万人の尊い「命」を救うことができるだろう。そう思い、今日も貢献していく。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 宮澤 祐樹

ぼくは、毎週金曜日ボランティアで、しょうこう口そうじをします。

先生が通るたびに、

「ごころうさま！」

と、声をかけてくれます。ぼくも、なんだかうれしくなります。ピカピカになると、とてもうれしいです。

福島市立福島第一中学校 一年 穴戸 朋華

私は、小学四年生の時に、地域のボランティア活動に参加しました。

内容は、どれも、あまり目立たない活動でしたが、作業が終わったあとに、近所の方に感謝の言葉を言われ、とてもうれしかったです。

この気持ちを大切にしていきたいです。

福島市立福島第一中学校 一年 菅野 文香

「おはよう」

その言葉で、その場の空気が温くなる。

「おはよう」

その言葉で、みんな元気になる。

だから言おう

「おはよう」 って。

福島市立福島第一中学校 三年 齋藤 陽大

東日本大震災のときに僕が一番助かったことは、いろいろな人の「笑顔」です。これで僕は、とても前向きになりました。しかも誰でもできます。

なので、ボランティアだけでなく、できるだけ笑顔をしています。

郡山市立郡山第六中学校 三年 猪上 椋太

今できること

それは笑顔の町を作る

これならできる

毎日落ちているゴミ

ただそれを拾うだけ

小さいことを毎日やる

少しずつ笑顔を作る

ただそれだけ

ただそれだけ

須賀川市立第三中学校 二年 柏倉 嘉乃

一年生の時から公民館のボランティアをしています。この経験からよく、人の助けをして笑顔になってもらえるのはいいなと思うようになりました。少しのことでも役立つのなら、中学校を卒業しても続けたいです。

西郷村立西郷第二中学校 一年 内堀 日向

私は、小学校の頃に吹奏楽部でひよりの里などに行って、音楽のボランティアをしていました。

昔の曲などを演奏した時に、泣いて喜んでくれる人もいて、ボランティアっていいなあと思いました。

西郷村立西郷第二中学校 二年 鈴木 奏七

私は人を助けることがたくて、一週間保育園のボランティアをしました。自分から行動することで感謝されたりするのが嬉しかったです。

人のために役立つことが大切ということを、あらためて実感できました。

喜多方市立高郷中学校 二年 小柴丞一朗

ぼくは、夏休みの部活帰りに一人で自転車で帰っていると、おばさん達が道ばたでゴミ拾いをしていました。

僕はなぜか申し訳ないなと思いました。こんなことをさせていいのかと思いました。

僕も今度はやりたいです。

いわき市立藤間中学校 三年 長瀬 和真

地域の小学生と関わる活動のボランティアに参加した。

僕は、緊張していたが、みんなが笑顔で接してくれて、楽しく活動できた。

「参加してくれて本当に助かったよ。」

これを聞いて、僕は、また参加したくなった。

福島県立白河旭高等学校 一年 藤田 悠介

私は赤十字社の医療救急ボランティアに参加し、自分でも命をつなぐことが出来ることを知りました。より一層多くの人がこれを知り、学び、一つでも多くの命をつなぐ手助けができたらな、と心から思っています。

福島県立平支援学校 三年 茨木 優太

僕はいつも周りから助けられてきた。だから自分で出来ることをずっと探していた。でも、自分のことを何が出来たのではなく、誰かのために何が出来たかが大切だと気がついた。そういうボランティアは人と人を繋ぎ、喜ばせる力があると僕は思う。

福島県立白河旭高等学校 二年 江尻さくら

先日、献血のボランティアに行った時、私はとても感慨深い思いを感じました。この血を輸血される方は私達が生きるこの一瞬を必死に生きているのだということを。だからこそ今という時間を私は大切に生きたいです。

福島県立平支援学校 三年 三浦 宰

私が出来るボランティアは、障がい者や健常者みんなが共に生きられるように、「障がい者の視点」を発信していくことです。自分達の意見を反映してもらいみんなが笑顔になれる社会を私は目指していきたいです。

「わたしのできるボランティア」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

二年 横山 徳音
二年 梅津 颯太
三年 齋藤 凜
四年 佐藤 環
五年 半沢 悟己
五年 尾形 梁太

福島市立湯野小学校

三年 佐藤 愛琉

福島市立庭坂小学校

一年 木村 愛来
一年 志賀 瑛斗
二年 板橋 夢倅
三年 佐藤隼太郎
三年 廣瀬 笑幸
三年 菊野 大和
三年 栗原 慶太
三年 鈴木 恵介
三年 山本 蓮斗
六年 清野 美来
六年 仲野 湊人

伊達市立堰本小学校

三年 佐藤 里紗

二本松市立二本松南小学校

四年 渡辺 絢
五年 山田ひかり
六年 宮坂 琴美

二本松市立原瀬小学校

六年 丹野 美桜

郡山市立片平小学校

六年 伊東 春奈
六年 山中 太陽

郡山市立富田東小学校

三年 伊藤 蓮
三年 近藤 結愛
三年 澤田 莉奈
四年 高原 杏奈
五年 千葉 諒士
六年 堀越 楓

郡山市立富田西小学校

四年 渡辺さおり
六年 橋本 信吾

須賀川市立阿武隈小学校

四年 鈴木 悠真
六年 鈴木 湊

須賀川市立柏城小学校

三年 近内 圭希
三年 大河原 唯
三年 小橋永晴凜

会津若松市立城北小学校

五年 伊藤 林檎

会津美里町立高田小学校

六年 永山琥太郎

新地町立福田小学校

一年 鈴木 玲王
二年 佐伯 直人
三年 菅原 風濤
三年 荒 広実
四年 本田 結愛

鏡石町立第一小学校

五年 渡邊 絢仁
五年 近 莉沙
五年 會田花奈恵
六年 安藤 優

小野町立浮金小学校

四年 遠藤 永愛

白河市立信夫第一小学校

三年 小野 光

三年 柳沼 陽樹

四年 伊藤 恵人

新地町立新地小学校

三年 齋藤 真
三年 名取亜矢佳
五年 桑原 咲幸
六年 塩沼 宏哉

新地町立駒ヶ嶺小学校

五年 鎌田のどか

相馬市立磯部小学校

五年 島 凌太

相馬市立日立木小学校

一年 河内 聖翔
四年 三岡 晃大
五年 佐原 大悟
六年 遠藤 魁湊

南相馬市立高平小学校

四年 増山 空
四年 佐藤 真翔
五年 光居 優梨
六年 小元 香怜
六年 今野 瑞雪

南相馬市立小高小学校

五年 大樂 慶人

いわき市立郷ヶ丘小学校

六年 田中孝太郎
六年 見城みずき
六年 中山 大輔
六年 松本 千聖
六年 中野 実玲
六年 又吉 杏香
六年 折内康太郎
六年 澤田 琢磨

いわき市立草野小学校

六年 高橋 志菜
六年 小松 華奈

福島市立福島第一中学校

一年 本田 拓夢
二年 伊藤 航希
二年 松本 菜那
二年 富樫 琳心
二年 八巻樹稀也

須賀川市立第三中学校

二年 岡部虎之助
二年 羽生 花鈴
二年 高木 慧士

白河市立白河第二中学校

一年 塚田 爽愛
一年 橋本 美優
二年 難波 佑衣

喜多方市立高郷中学校

二年 佐藤 優生
二年 高久さくら
二年 細川 沙耶
三年 須藤 悠稀

相馬市立向陽中学校

一年 坂本 瑠愛

いわき市立藤間中学校

二年 馬場 綾音

福島県立本宮高等学校

一年 菅原 莉櫻

学校法人福島東稜高等学校

二年 佐藤 涼花

福島県立白河旭高等学校

一年 吉田 梨花
三年 橋本 拓巳

福島県磐城第一高等学校

三年 宮崎 愛凜
三年 櫻井 聖来

一〇〇文字提案

「福島・日本・世界のために

わたしがしたいこと、
できること」



「福島・日本・
世界のために
わたしがしたいこと、
できること」

優秀賞

須賀川市立小塩江小学校

四年 横田 綾太

相馬市立日立木小学校

三年 前川あきな

いわき市立郷ヶ丘小学校

六年 草野 美空

六年 伊藤 早織

会津坂下町立坂下中学校

三年 渡辺 琉華



「福島・日本・世界のために
わたしがしたいこと、できること」優秀賞

須賀川市立小塩江小学校 四年 横田 綾太

ぼくの住んでいる福島は、まだ放射能の問題が残っている。

だけど福島は安全ですてきな県だ。県産のもも、きゅうり、お米はとってもおいしい。

ぼくは、県産の食べ物を食べて大きくなり安全を証明するぞ。

相馬市立日立木小学校 三年 前川あきな

わたしたちの学校では、どんぐりを育てて、来年よくじゅする。

しんさいで、緑がなくなつてさびしくなった。たくさんの木が育つて、緑がふえたらうれしい。

わたしたちのどんぐり、がんばって。しっかりおせわするから。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 草野 美空

医師になりたい。ただ、診察だけじゃなくて、心の傷を治したい、特に被災した人の心を。

私が思ってる以上にきつと心の傷は深い。それを、少しでも、ちよつとでも、治したい。

だから、医師になりたい、厳しくても…。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 伊藤 早織

「助けたい。」

この一言で日本が変わる、世界が変わる。

「手をさしのべる。」

このできごとで未来を照らす。

築こう！すてきな世界を。歩み始めよ

う！新しい未来への一歩を。皆が楽しく

過ごせる様に。

思いやりの心で。

会津坂下町立坂下中学校 三年 渡辺 琉華

忘れない

忘れられない

でも人は忘れていく

二〇一一年三月十一日

覚えている人は

どんどんいなくなる

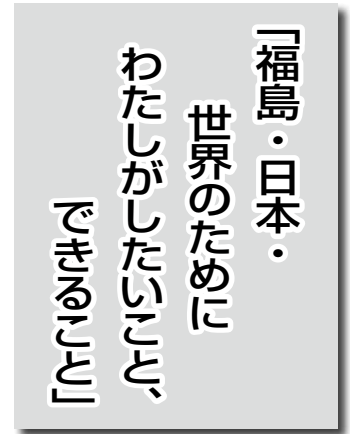
大好きな映画のように

忘れてほしくない

さあ、話そう。

ずっと昔、福島に…。





佳
作

福島市立福島第一小学校

一年 近澤 昭太

五年 佐藤 緋色

六年 国分煌史郎

福島市立野田小学校

四年 畑中 夢蕾

六年 長谷川 楓

福島市立庭坂小学校

一年 小関 璃音

一年 角田 悠馬

一年 山岸 龍馬

五年 戸田 真人

六年 菅野 望

郡山市立富田東小学校

四年 岩見 翼

郡山市立根木屋小学校

六年 寺尾 怜生

須賀川市立稲田小学校

五年 吉成 娃李

須賀川市立小塩江小学校

六年 並木 海理

須賀川市立柏城小学校

四年 塩田 哲平

六年 荒井 遥名

新地町立新地小学校

六年 舟山 碧人

六年 目黒隼之介

相馬市立磯部小学校

二年 佐藤 權地

相馬市立日立木小学校

二年 遠藤 小雪

二年 伊藤 彩

五年 山田 真寛

六年 今野 湧翔

双葉町立双葉南小学校

六年 渡部 一

いわき市立郷ヶ丘小学校

六年 加藤 溜喜

六年 加茂 雄斗

六年 古堅 まり

六年 宮城 叶羽

福島市立福島第一中学校

一年 室本 眞聖

白河市立白河第二中学校

三年 齋藤 海杏

西郷村立西郷第二中学校

一年 大高 秀斗

二年 大平 桃寧

三年 小野寺 晴

三年 三星朱莉亜

喜多方市立高郷中学校

三年 小林 友津

相馬市立向陽中学校

二年 佐藤 夏緒

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

二年 佐藤 李菜

福島県立白河旭高等学校

一年 本柳 幸音

一年 中村 日南

学校法人尚志学園尚志高等学校

三年 岩崎 拓末

『福島・日本・世界のために
わたしがしたいこと、できること』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 近澤 昭太

ぼくがせかいのためにできることは、しげんをたいせつにつかうこと、やさしいきもちをもっているひとをたすけること、そして、ひとをきずつけたりころしたりするせんそうを、ぜったいにしないことです。

福島市立福島第一小学校 六年 国分煌史郎

人はなぜ、にくしみ、争うのでしょうか。クラスがぎくしゃくした時に、みんなで話し合いをしました。その時、相手を思いやり、理解する事が大切だと知りました。これは、世界中の人たちにも共通する事だと僕は思います。

福島市立福島第一小学校 五年 佐藤 緋色

あの日から福島は変わってしまった。
六年たって、ぼくも変わった。大きくなって色々考えられるようになった。あの日、ぼくらは被災者だった。
今のぼくらは先駆者なんだ。できること、伝えること。

福島市立野田小学校 四年 畑中 夢蕾

あの日
笑顔が海に消えていくけど
みんなが助けてくれたね
笑い声、笑顔が返ってありがとう
わたしは大きくなる
そしたら
人のためにはたらくの
みんな、笑顔になる
ありがとう
その言葉が
みんなの力になる

福島市立野田小学校 六年 長谷川 楓

二〇二〇年に東京オリンピックが開かれます。私は、それまでに英語を勉強して、困っている外国人を助けたいです。
そして、世界中の人に、被災地の土地や食べ物が安全だということ、アピールできたらいいです。

福島市立庭坂小学校 一年 小関 璃音

ぼくがふくしまのためにしたいこと。ぼくはゆうめいなれすとらんをつくりたいです。ふくしまでとれるやさいでありょうりをつくります。そして、にほんじゅうのひとにふくしまにたべにきてもらって、ふくしまをしまってほしいです。

福島市立庭坂小学校 一年 角田 悠馬

ぼくがうまれてすぐに、おおきなじんがおきました。ぼくは、みんなのあたたかいおうえんで六さいになりました。ぼくはこれからもげんきにおおきくなって、せかいじゅうのみんなにありがとうをつたえていきたいです。

福島市立庭坂小学校 一年 山岸 龍馬

たんぼにはかえるがいた。おがわでイモリやどじょうをみつけた。よるには、ホテルがひかっているのをみた。あさはやぐがっこうにいくと、くわがたをみつけた。こんな、しぜんいっぱいのふくしまを、まもっていききたい。

福島市立庭坂小学校 六年 菅野 望

私は母といっしょに服を買いにいった。出入り口に、服が入っている大きな箱を見つけた。世界の人に服をゆずるボランティアだった。それを見て、この一着で、世界のだれかを救えると思ったら、自分もやりたいと思った。

福島市立庭坂小学校 五年 戸田 真人

ぼくは、去年病気になるしました。手術をして治りました。ぼくは、「医者になりたい。」と思いました。医者になって、治るのがむずかしい病気でも、世界のために日本のために、医者になってみんなを笑顔にしたいです。

郡山市立富田東小学校 四年 岩見 翼

ぼくは、エンジニアになりたいです。ぼくは、今、じこやけがで、手や足が不自由な人のために、手や足の代わりになるロボットを作り、世界中の人をたすけたいです。そして、手や足が不自由になる前の体になりたいです。

郡山市立根木屋小学校 六年 寺尾 怜生

しん災では、多くの人が苦しみました。しかし、いろいろな支援を受けいまの福島があります。その中、いまできることは、福島が元気でやっていることを世界へ発信すること。そして、この経験を未来へ残すことなのです。

須賀川市立小塩江小学校 六年 並木 海理

自然豊かで食べ物おいしい、大好きな福島のために、ぼくは二つのことをしたい。一つは、放射線についての正しい知識を多くの人に伝えること。二つ目は進んであいさつをすること。あいさつで、みんなの心がほんわりやさしい気持ちになったらうれしいと思う。

須賀川市立稲田小学校 五年 吉成 娃李

私の家の米はおいしいよ。
私の家の野菜もおいしいよ。
毎日食べて元気だよ。
毎日食べて健康だよ。
だから、安全だよ。
安全な福島、ずっと守りたい。

須賀川市立柏城小学校 四年 塩田 哲平

ぼくは、しょう来医者になって、世界の中の病院のない地いきで困っている人達を助けたいと思います。東日本大しん災の時は小さかったぼくだけど、色々な国の人が助けに来てくれた事を知り、恩返ししたいからです。

須賀川市立柏城小学校 六年 荒井 遥名

私は、毎日会話をする。会話は相手の気持ち分かり、ま法のようだ。相手を悲しませたり喜ばせたり会話一つで簡単だ。私が話すだけで、みんな喜んでくれる。それなら私は、人とたくさん話そうと決めた。

新地町立新地小学校 六年 目黒隼之介

ぼくが、できることは、友達のいいところを見つけて、それを伝えることです。一人一人がいいところを見つけて伝え合うことができれば、この世の中から争いがなくなり、平和な世界につながっていくと思います。

新地町立新地小学校 六年 舟山 碧人

ぼくの父は介護士だ。人のお世話をし、命を預かる仕事。お年よりには特に必要。でも、三Kといきつい仕事だと父から聞いている。だからこそ、ぼくは、この仕事を受けつぎ、みんなの役に立つような人になる。

相馬市立磯部小学校 二年 佐藤 耀地

ぼくは、せかいおんだんかが心ぱいです。だから、エネルギーをたいせつにしたいです。カンやペットボトルをきちんと分けてすてたり、でんきをむだにつかわないように気をつけたいです。ちきゅうをたいせつにしたいな。

相馬市立日立木小学校 二年 遠藤 小雪

わたしが、ふくしまのためにできることは、ふくしまをすきでいること。そうすれば、ふくしまのよいところをいろいろな人につたえることができるから。よいところをきいた人がふくしまをすきになってくれるからです。

相馬市立日立木小学校 五年 山田 真寛

学校で集めているエコキャップは何のためだろう。調べたら、世界の子供たちにワクチンをおくるためだ。八百六十個で一人分のワクチンだ。小さなエコキャップは命を救う大きな力です。僕はこれからもエコキャップ運動を続けます。

相馬市立日立木小学校 二年 伊藤 彩

しんさいのときわたしは一さい前でママがおんぶしてつなみからのちをまもってくれました。ぜんぶなくなってしまうたけれど日本中の人々がたすけてくれました。しょうらいかんごしになっていのちをつなげたいです。

相馬市立日立木小学校 六年 今野 湧翔

日本では、まだ食べられるのに捨てている人が多い。食べられてあたりまえ、ぼくもそうでした。
「すべてに感謝！食べ残しゼロ」のポスターに感動しました。調理をしてくれた人に感謝、食べ物を残さない、心がけたいです。

双葉町立双葉南小学校 六年 渡部 一

ぼくにできることは食べ物を粗末にせず残さず食べることで
す。

震災のとき、水も食べる物もないということが、どれだけつ
らいことかを体験しました。

水や食べ物は、ぼくたちの命そのものなので、感謝し大切に
したい。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 加藤 溜喜

大きな被害を受けた福島県。東日本大震災で、何人もの命が
奪われました。けど、今を生きているぼくたちが、この亡くな
ってしまった人々の分まで生きるのです。だから、自分で命を
絶つことは絶対にしてはいけませんのです。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 加茂 雄斗

東日本大震災を経験して、僕は、色々な人に支えられて生活
していることを知った。家族や友人だけでなく、見知らぬ人に
優しい声をかけてもらうこともあった。

次は、僕が誰かを支える番だ。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 古堅 まり

私は小さいころかぜをよくひき、薬をもらっていた。しかし、
世界には、薬どころか注射も受けられない子どもがいるときい
て、心が痛んだ。私は、募金をし、エコキャップを集め、世界
の子ども達にワクチンを届けていきたい。

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 宮城 叶羽

みんなのため、みんなのため、と思うけど、じゃあ、私には、何ができる？募金？エコキャップ？身近なことから？…そうだとそれだ！身近から周りから、ひろげよう。みんなの笑顔は私の笑顔。みんなでひろげるみんなの笑顔。

白河市立白河第二中学校 三年 齋藤 海杏

たった一人の力がどれほど大きいものなのか。福島未来について考えるサミットに参加した私はそう思いました。自分の国、県は自分達の力で作り直す。そう私は考えます。

福島市立福島第一中学校 一年 室本 眞聖

福島・日本・世界のために僕ができることはなんだろう
それは自分のことだけではなく他の人のことも考えることだと僕は思う。
一つの親切は次の人へと続いていくと思うからである。

西郷村立西郷第二中学校 一年 大高 秀斗

今年で戦後七十二年をむかえた。唯一の被爆国であるこの日本。今後、二度と核兵器による戦争が起きないためにも、僕達、若い世代が、平和の大切さや命の尊さを世界に伝えていかなければならないと思う。

西郷村立西郷第二中学校 二年 大平 桃寧

福島の人たちの笑顔が見たい。震災があって、泣いた顔や悲しい顔をたくさん見てきた。復興のためにがんばる姿に元気をもらった。次は私の番だ。何か小さいことから人を助けていきたい。福島を笑顔満開の県にしたい。

西郷村立西郷第二中学校 三年 三星朱莉亜

私の夢は役者になること。その思いは、震災がきっかけで一層強くなった。放射線の影響で、福島の人々が差別されることがある。私は、差別に苦しむ人を、舞台を通して笑顔に変えてあげられるような、そんな役者になりたい。

西郷村立西郷第二中学校 三年 小野寺 晴

私には、通訳という夢があり、英語が話せるようになったら、震災のことをたくさんの人に伝えたいです。私は、人と人との架け橋のような役割を果たせるような人になりたいです。夢に近づけるようこれからも頑張ります。

喜多方市立高郷中学校 三年 小林 友津

世界のためにしたいことは、外国の人と関わり、異なった文化を理解することです。他の国を理解することが出来れば、交流も深まり、世界平和につながると 생각합니다。これからは、様々な国の人達と関われるようにしたいです。

相馬市立向陽中学校 二年 佐藤 夏緒

百円で五本。これは、まだ医療が発達していない国の子達に打つことができる注射の数。そのために学校で募金を集めたい。一人の力は小さくても、世界が集まれば大きな力になるので、できることをやっていきたい。

福島県立白河旭高等学校 一年 本柳 幸音

伝えること。私達の声を。世界中の人々の気持ちを。歌にのせて、遠くへ。大切な言葉を歌詞に。心躍るステップをリズムに。そして私達の個性豊かな声で。私達だったらなんだって出きる。この歌で人の心を動かせる。

学校法人福島成蹊高等学校 二年 佐藤 李菜

学校に行ける。それはあたりまえではない。発展途上国の子ども達は一日中手伝いをしている。家のため、家族のために。そんな子ども達のためにも、私達は、あたりまえの毎日を一日一日大切に過ごさなければならぬ。

福島県立白河旭高等学校 一年 中村 日南

私は将来、救急救命士になりたいです。その理由の中に大震災で多数の犠牲者がでた中、救命士によって命を救われた人がいることを知り、将来また日本の中で震災が起き、被災者を一人でも多く助けたいと思ったからです。

学校法人尚志学園尚志高等学校 三年 岩崎 拓未

この現代の社会から偏見と思い込みをなくし、「障がい者」というくくりをやめて、すべての人が平等に社会に調和でき、バリアがなく、日常生活を支障なく行える社会やまちづくりをしていきたいです。



「福島・日本・世界のために
わたしがしたいこと、できること」入選
受賞者

福島市立福島第一小学校

三年 尾形 桃佳
三年 赤井 利穂
五年 大和田晟史
六年 田中 碧月

福島市立野田小学校

五年 後藤 瑛成

福島市立庭坂小学校

一年 手塚 詩乃
二年 大淵 絢香
二年 宗像 恵歩
四年 櫻井まりあ
五年 渡辺 美空
六年 國井星璃佳

伊達市立堰本小学校

三年 橘 玲那
三年 長沢 成

二本松市立二本松南小学校

四年 橘内 萌奈
六年 伊藤 丈陽

郡山市立片平小学校

三年 遠藤 未空

郡山市立富田東小学校

三年 鈴木 遙流
三年 林 春琉
三年 吉田 侑加
六年 榮 温人

郡山市立富田西小学校

六年 二階堂夏子
六年 早田すみれ
六年 吉田 葵生

須賀川市立稲田小学校

五年 大賀 彩姫
五年 深谷 凌汰

須賀川市立阿武隈小学校

四年 鈴木陽南乃

須賀川市立柏城小学校

六年 佐藤 梨花
六年 佐藤 優輝
六年 廣川道太郎

鏡石町立第一小学校

六年 円谷 耀大

鏡石町立第二小学校

六年 鈴木 優太

矢祭町立矢祭小学校

四年 佐川 葵

会津若松市立河東学園小学校

六年 東條 凜子

新地町立福田小学校

一年 林 咲也菜
一年 林 花音
一年 齋藤 海優
五年 佐藤 藍夢

新地町立新地小学校

四年 柴田 諒翔
六年 菅野 まみ

新地町立駒ヶ嶺小学校

三年 名取 茉穂

相馬市立磯部小学校

二年 門馬 一之
三年 横山 瑠菜

相馬市立日立木小学校

一年 阿部 恵佑
三年 岡田 優真
六年 大和田慧吾

南相馬市立高平小学校

三年 堀内 咲結
五年 寶 雄太
六年 天野 華帆

浪江町立津島小学校

五年 須藤 真司

川内村立川内小学校

六年 上遠野琉偉

いわき市立草野小学校

六年 塩田 周作

六年 菅野 里奈

六年 野木日々季

福島市立福島第一中学校

一年 増子 登夢

一年 市川 真由

二年 齋藤優之介

二年 菅野 真帆

三年 五十嵐大己

三年 加藤 優奈

三年 赤井 玲玖

三年 蓮沼 悠真

三年 八巻 滯佳

須賀川市立第三中学校

二年 安藤 遥南

二年 小松 史門

浅川町立浅川中学校

一年 蛭田 愛依

西郷村立西郷第二中学校

一年 斎藤 篤志

二年 北川 結彩

二年 井上 友希

二年 大野 拓聖

二年 橋谷田紘子

三年 保坂 歩希

三年 伊東 真潤

喜多方市立高郷中学校

一年 秋山 空

二年 田口敬太郎

二年 永島 周斗

学校法人松韻学園福島高等学校

一年 佐藤茉佑子

福島県立白河旭高等学校

一年 石井 梨那

一年 大久保雄飛

一年 三浦 千佳

二年 上妻 優花

一年 橋本 凌

二年 益子 朋花

学校法人尚志学園尚志高等学校

二年 小林 優佳

一〇〇文字提案

「わたしが感動したことばやできごと」



「わたしが感動した
ことばやできごと」

優秀賞

二本松市立二本松南小学校

六年 村松妃奈乃

郡山市立富田東小学校

四年 横山 知明

矢祭町立矢祭小学校

五年 藤井 謙蔵



『わたしが感動したことばやできごと』優秀賞

二本松市立二本松南小学校 六年 村松妃奈乃

感動したことばは、

「倒れない強さよりも倒れても立ち上が

る強さを持つとう」

ということばだ。

私は、辛い事があったとき、このこと

ばを思い出して、勇気を持ってチャレン

ジしようと思っている。

郡山市立富田東小学校 四年 横山 知明

ぼくが、しんさいにあったのは三才の

時。六年たって初めて家のあった所へ行

った。

なにもなかった。ぼくの頭の中もなに

もなかった。覚えているのは、おじいち

やんと歩いた港だけだった。

この大切な思い出を忘れないよ。

矢祭町立矢祭小学校 五年 藤井 謙蔵

「がんばろう」と言われたらつらくても立ちあがれる。

「大丈夫？」と聞かれたら、安心できる。

「うれしい」と言われるとぼくもうれしくなる。

ぼくも、素直な心になりたいな。



「わたしが感動した
ことばやできごと」

佳
作

福島市立福島第一小学校

二年 国分 尊

福島市立庭坂小学校

五年 佐藤 あづ

伊達市立堰本小学校

六年 原田 泰成
六年 佐藤 千咲

二本松市立二本松南小学校

五年 伊藤 日陽

郡山市立片平小学校

三年 國分 陽葵

郡山市立桃見台小学校

一年 小林 由采
三年 石垣 凜
四年 三上 璃久
五年 齊藤 陸
五年 塩谷 清佳

郡山市立富田東小学校

三年 芳賀 来星
六年 笹田 都亜
六年 二瓶 駿介

須賀川市立柏城小学校

五年 高井あすか

白河市立表郷小学校

四年 大川原芽依

白河市立信夫第一小学校

四年 室井 花穂

新地町立福田小学校

六年 門馬 優

新地町立新地小学校

五年 佐藤 大介

新地町立駒ヶ嶺小学校

三年 星 慶音

相馬市立日立木小学校

一年 菊池 颯良
四年 村上 春聖

浪江町立浪江小学校

六年 今野笑瑠捺

いわき市立郷ヶ丘小学校

六年 栃原 亜衣

いわき市立綴小学校

六年 根本 春哉

福島市立福島第一中学校

二年 立花 怜央
三年 作田 遥菜

福島大学附属中学校

一年 占部 太提

須賀川市立第三中学校

二年 鈴木 眞優

西郷村立西郷第一中学校

二年 古賀 瑞季

福島県立福島北高等学校

三年 大槻ひより

福島県立白河旭高等学校

一年 飯村和佳奈
二年 鈴木 莉乃

『わたしが感動したことばやできごと』佳作

福島市立福島第一小学校 二年 国分 尊

朝のほうし活どうの時間に校ていの草むしりをした。一年の時は、虫にさされるし、あつくていやだなあと思う時もあった。でも、今はちがう。草のない校ていを見ると気持ちがいい。ぼくの心もきれいになった気分だ。

伊達市立堰本小学校 六年 原田 泰成

ぼくが感動した出来事は、伊達市オラトリオに参加出来たことです。伊達市の歴史や未来を歌った素晴らしいものでした。オン・ザ・ロードの歌のように、ふる里を常に思いながら自分の進むべき道を見つけたい。

福島市立庭坂小学校 五年 佐藤 あづ

私は、たん生日プレゼントでお母さんに、手紙をもらいました。

手紙をもらった時ワクワクドキドキで早く読みたい気持ちでいっぱいでした。読んだ後、私は、感動して泣いてみんなに笑われました。うれしかったです。

伊達市立堰本小学校 六年 佐藤 千咲

わたしが感動したことは、わたしたちが生きているということです。なぜかというと、シリアなどでは、内戦がはげしく、自分が死んでもおかしくないじょうきようだったからです。

わたしは、今を大切に生きます。

二本松市立二本松南小学校 五年 伊藤 巨陽

ぼくのひいばあちゃんが亡くなる前に、ぼくに言った言葉は、「みんなに支えてもらっているんだからがんばりなさい。」でした。だから、ぼくは何でもがんばろうと思います。

郡山市立桃見台小学校 一年 小林 由采

わたしは、六がつで、七さいになりました。たくさんのおひとから、おめでどう、げんきにうまれてくれてありがとう、いわれました。ひとつおおきくなると、みんなが、えがおになる。おとうさん、おかあさん、ありがとう。

郡山市立片平小学校 三年 國分 陽葵

私は、大つぶのなみだが止まらなく出た時、お母さんがぎゅっとだきしめて、せなかをポンポンしてくれたとたんに、なみだがずっと止まり、え顔になりました。だから、私もないという人がいたら、え顔にしてあげたいです。

郡山市立桃見台小学校 三年 石垣 凜

わたしのおじいちゃん、びょうきでなくなりました。動かなくなった手で、わたしと一生けんめいジャンケンをしてくださいました。わたしもさいごまで、何でもあきらめないで、がんばって生きていきたいと思いました。

郡山市立桃見台小学校 四年 三上 璃久

「よくやったなあ!」

マラソン大会などで入賞したり自己ベストを出したりした時にお父さんが言ってくれる言葉。これを言われると、ぼくの中の「がんばりスイッチ」がオンになる。ぼくもだれかに言ってあげたいなあ!

郡山市立桃見台小学校 五年 齊藤 陸

「勝者は常にあきらめない。」

メジャーリーガーのピートグレイの言葉です。右腕がなくてもメジャーリーガーになる夢をかなえた人です。ぼくは、がんばっても結果を出せなかったときに、この言葉ではげまされます。

郡山市立桃見台小学校 五年 塩谷 清佳

私が、点めつしている信号をわたろうとすると、

「危ないことはしないで。清佳がいなくなったらお母さん悲しい。」

と言われました。

その時、私は、愛されているなど実感しました。「ごめんなさい。」とすなおになりました。

郡山市立富田東小学校 三年 芳賀 来星

お母さんに聞いた

ぼくが生まれた日の事
小さな体で

一生けんめい泣いてた
それを聞いて

みんなが泣いたって
なぜかうれしくなった

ぼくもよろこばせたい
お友だちみんなを

笑顔のまほうで

郡山市立富田東小学校 六年 笹田 都亜

「他人の記録を抜くには七割の力でも可能だが、自分の記録を超えるには十以上の力が必要だ。」というイチローの言葉が好きです。

卓球の練習の時、大会の時ばかりは勝ちたい気持ち強いが、まずは自分に負けない事が大切にしたいです。

須賀川市立柏城小学校 五年 高井あすか

わたしがとても感動した言葉は、「失敗して終わりではない。失敗した後何をするかが大切。」という言葉です。

失敗した時に、この言葉を思い出すと失敗した後は何をするかが大切なんだと気付かされています。

郡山市立富田東小学校 六年 二瓶 駿介

ぼくには病気のおじいちゃんがあります。起きあがれず苦しい時に、まくらに引くタオルに「がんばれ」と刺しゅうをしてあげました。

涙をながして喜んでくれた姿に、ぼくはとても感動しました。やってよかったと思います。

白河市立表郷小学校 四年 大川原芽依

わたしは、去年の春に、おじいちゃんの小鳥のえさのヒマワリの種が落ちていたので、それをまいて育ててみました。そして夏になると芽が出て花もさきました。落ちていた小さな命を育ててあげられて、よかったなあ。

白河市立信夫第一小学校 四年 室井 花穂

わたしは、電車に乗ってあることに気づきました。それは体が不自由な人がいました。その人は立っているのがたいへんそうでした。わたしは、はじめて席をゆずることができました。席をゆずることがドキドキしました。

新地町立新地小学校 五年 佐藤 大介

野球部の目標は、「目配り・気配り・思いやり」だ。テレビで甲子園でゆう勝したチームの選手が、相手チームのバットを片づけているところを見て、とても感心した。ぼくもそういう心をもった選手になりたいと思った。

新地町立福田小学校 六年 門馬 優

「わたしたちは先がないから、あなたたちがこのおむすびを食べなさい。」

これは、震災直後に食べる物がないときに声をかけてくれたおばあさんたちの言葉です。この言葉で勇気づけられました。

新地町立駒ヶ嶺小学校 三年 星 慶音

ぼくに妹が生まれました。ぼくは、うれしくなりました。そしてこう感じました。

「いのちってすてきな。」

そして、「妹をしっかりまもろう。」と心にきめました。

相馬市立日立木小学校 一年 菊池 颯良

浪江町立浪江小学校 六年 今野笑瑠捺

ばあばのやさい
みずみずしくて
とってもおいしいよ
キュウリ
トマト
ズッキーニ
みんな いのちのおやさいだよ

相馬市立日立木小学校 四年 村上 春聖

ぼくのランドセルは、震災の支援物資で届けられた物です。
中には手紙があり、お礼の手紙を送りました。遠く離れた人同士でもつながれるんだと思いました。
六年間大切に使いたいと思います。

「おかえり」
玄関を開けると聞こえる大きな声
私の一日はどんなだった？
優しく包んでくれる
照らしてくれる
家族
忘れちゃいけない
私もいつか子供が出来たら
言って迎えてあげよう
その道は一人じゃないよ
「おかえり」

いわき市立郷ヶ丘小学校 六年 栃原 亜衣

泣き虫な私が、見つけた言葉。
「泣いていたら、目の前のすてきな物が、何にも見えないんだよ。」
この言葉を聞いた瞬間、もう泣きたくないな、って思えた。この先にある、輝いた世界を、輝いた笑顔でながめるために。

いわき市立綴小学校 六年 根本 春哉

「やればできる」これは、父の言葉です。

ぼくが勉強が全くできなかった時、逆上がりができなかった時、いつも「お前ならできるよ」といつてくれました。そのおかげで、ぼくは、今も、ずっと頑張れます。

福島市立福島第一中学校 三年 作田 遥菜

「お互い様」という言葉は私にとってとても思い出のある言葉です。

この言葉は、震災にあい埼玉に一時避難していた時に、ホテル従業員の人が言ってくれた言葉です。その言葉で、私は心が軽くなる気がしました。

福島市立福島第一中学校 二年 立花 怜央

「おはよう、いってらっしゃい。」

「こんにちは、今日も暑いねえ。」

「こんにちは、一日お疲れ様。」

そんな地域の方々のあいさつが私は大好きだ。

だから私も、

「こんにちは。」

福島大学附属中学校 一年 占部 太提

新しい中学校

新しいクラス

新しい僕の机

周りの人は皆

ぼくを知らない

前の席の男子が

「よろしく」

と、笑顔で話しかけてくれた。

僕の心は日の出を迎えた

須賀川市立第三中学校 二年 鈴木 眞優

鳥は飛び方を変える事は出来ない。動物は這い方、走り方を変えることは出来ない。しかし、人間は生き方を変える事ができる。

医師の日野原重明氏の言葉。生き方は自分次第。悩み迷う時も、この自由を大切にしたい。

福島県立福島北高等学校 三年 大槻ひより

「話してくれてありがとう。すごく嬉しかったよ。」

私は病氣持ちだ。その事を知っている友人は少ない。ある日、思い切って話してみた。彼女はそう言った後に、

「私にできる事ない？」

と聞いてくれた。

その気持ちが嬉しいよ。ありがとう。

西郷村立西郷第二中学校 二年 古賀 瑞季

プールの中心に蝶が落ちた。友達が駆け寄って手を伸ばす。届かない。響く集合の声。繰り返し水面を叩く。思わず手を握る。あと少し。もうちょっと強く。

チャイムが鳴った。飛び立った蝶が、生きてやると叫んでいた。

福島県立白河旭高等学校 一年 飯村和佳奈

「出来る！出来る！頑張ることは嫌いじゃない。」

この言葉は、母が私にくれた言葉だ。中学生の時、父を亡くした悲しみを無くそうと考えた母からの精一杯の言葉だ。

私はこの言葉のおかげで未来に向かい頑張っている。

福島県立白河旭高等学校 二年 鈴木 莉乃

じぶん史上、最高の夏。

試合終了後、泣き崩れて立てない選手に肩を貸し、「よく頑張った」と声をかけている主将を見て、私は涙が止まらなかった。

自分も悲しいはずなのに、最後まで笑顔を貫き通す姿は、誰よりも立派だった。



「わたしが感動したことばやできごと」入選 受賞者

福島市立福島第一小学校

一年 二木こなみ

二年 海野 功生

三年 佐久間信乃介

福島市立庭坂小学校

三年 紺野 夢生

伊達市立堰本小学校

六年 高橋 歩実

二本松市立二本松南小学校

五年 菅野 琉雅

郡山市立片平小学校

六年 酒井 茉侑

郡山市立桃見台小学校

一年 本田 杏

一年 安田 拓未

郡山市立富田東小学校

四年 佐藤 結愛

六年 萩川 あさ

六年 物井 文哉

六年 猪狩 千陽

郡山市立富田西小学校

四年 上石 勇輝

六年 野口 結名

須賀川市立稲田小学校

六年 岩崎由佳子

須賀川市立阿武隈小学校

四年 斎藤 滉大

四年 塩沼 誠人

須賀川市立柏城小学校

三年 伊藤 蒼史

三年 坂井 謙太

四年 真壁 陽葵

四年 加藤 結愛

四年 矢部 翔琉

五年 本間 絢人

六年 山寺 虹輝

白河市立信夫第一小学校

三年 渡邊 梨瑚

五年 石井 凜音

新地町立新地小学校

三年 目黒 心望

四年 門馬 未紘

五年 佐々木明日香

新地町立駒ヶ嶺小学校

六年 大和田 陸

六年 岩渕 哲

相馬市立磯部小学校

一年 土屋 葵

三年 佐藤 優介

相馬市立日立木小学校

二年 草野 夏凜

南相馬市立高平小学校

四年 末永 拓

五年 高木野々花

双葉町立双葉北小学校

六年 脇坂 玲名

いわき市立郷ヶ丘小学校

六年 藁谷 優衣

六年 根岸 勇成

六年 高野 恋奈

六年 西郡 美琴

いわき市立綴小学校

六年 白石 世椰

いわき市立高野小学校

六年 久我 大地

福島市立福島第一中学校

一年 菅野 心咲
二年 赤間 莉緒
二年 鈴木穂乃香
三年 阿瀬つかさ

郡山市立郡山第六中学校

三年 佐藤 雛

須賀川市立第三中学校

二年 大賀 凜
二年 石下 奈々

西郷村立西郷第二中学校

一年 佐藤 壮真
一年 荒井 陽南
三年 内山 璃音

喜多方市立高郷中学校

一年 石山 心南
二年 渡部考志朗
三年 小林 尚央

福島県立白河旭高等学校

一年 秋田ほのか
一年 白岩れもん
一年 大迫 由奈
一年 本宮 杏佳
三年 桑澤 紅葉

学校法人尚志学園尚志高等学校

三年 山崎沙弥香

学校賞

福島市立庭坂小学校
郡山市立富田東小学校
須賀川市立柏城小学校
相馬市立日立木小学校
いわき市立郷ヶ丘小学校
福島市立福島第一中学校

学校奨励賞

郡山市立富田東小学校
福島市立福島第一中学校



作品応募校

福島市立福島第一小学校	鏡石町立第二小学校	双葉町立双葉北小学校	学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校
福島市立湯野小学校	小野町立浮金小学校	川内村立川内小学校	学校法人東稜学園福島東稜高等学校
福島市立野田小学校	白河市立みさか小学校	いわき市立郷ヶ丘小学校	学校法人松韻学園福島高等学校
福島市立庭坂小学校	白河市立表郷小学校	いわき市立草野小学校	福島県立白河旭高等学校
伊達市立堰本小学校	白河市立信夫第一小学校	いわき市立綴小学校	学校法人尚志学園尚志高等学校
二本松市立二本松南小学校	矢祭町立矢祭小学校	いわき市立高野小学校	学校法人山崎学園福島県磐城第一高等学校
二本松市立原瀬小学校	会津若松市立城北小学校	福島市立福島第一中学校	福島県立平支援学校
郡山市立片平小学校	会津若松市立荒館小学校	福島大学附属中学校	
郡山市立桃見台小学校	会津美里町立高田小学校	郡山市立郡山第六中学校	
郡山市立富田東小学校	新地町立福田小学校	須賀川市立第三中学校	
郡山市立富田西小学校	新地町立新地小学校	浅川町立浅川中学校	
郡山市立根本屋小学校	新地町立駒ヶ嶺小学校	白河市立白河第二中学校	
須賀川市立稲田小学校	相馬市立磯部小学校	白河市立大信中学校	
須賀川市立小塩江小学校	相馬市立日立木小学校	西郷村立西郷第二中学校	
須賀川市立阿武隈小学校	南相馬市立高平小学校	喜多方市立高郷中学校	
須賀川市立柏城小学校	南相馬市立小高小学校	会津坂下町立坂下中学校	
鏡石町立第一小学校	浪江町立浪江小学校	相馬市立向陽中学校	
	浪江町立津島小学校	いわき市立藤間中学校	
	双葉町立双葉南小学校	福島県立福島北高等学校	
		福島県立本宮高等学校	

作品審査を終えて

作品の募集テーマは、青少年赤十字が目標として掲げている「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」という三つの柱と態度目標である「気づき、考え、実行する」から設定され、今年で十二回目となります。

青少年赤十字に加盟し活動している皆さんが、日々の生活を通して気づいたこと、考えたこと、行ったことなど、振り返って、自らを確かめてほしいという、強い願いが込められています。

寄せられた数多くの作品を、審査員一同、一つ一つ、丁寧に読ませていただきました。

何気ない普段の生活の一場面から家族の愛や友達の友情を鋭く感じ取ったり、世界の中で貧しい暮らしを送っている子供たちの心情に共感したり、自分の生き方について真剣に考えたりしているすばらしい作品が多くみられました。

「いのちの詩・愛の詩」では、自分を取り巻く「ひと・もの・こと」とのつながりを深める中で、読み手を共感させる「いのち」や「愛」の姿を工夫して表現しています。

「わたしのできるボランティア」では、小・中・高それぞれが発達段階に応じて、実際に汗を流し、人との関わりの中から、ボランティアの心をつかみ取っていく作品が見られます。身近なところに目を向け、奉仕活動を実践する子。それを支える良き指導者がいることにより、ボランティア・サービスの心が広がってうれしいことです。

「福島・日本・世界のためにわたしがしたいこと、できること」では、震災を体験した中から、全国や世界から頂いた多くの支

援や励ましに対し感謝の気持ちを込めながら、何ができるのか、災害や、紛争、貧困に思いをはせる多くの作品に触れるとともに、元気で安全な福島を発信したいという思いも込められています。

「わたしが感動したことばやできごと」では、日常さまざまな出来事の中で、気持ちのやり取りをしながら、傷ついたり喜んだり驚いたり、その中で生まれた感動や言葉が生き生きと表現されています。「あこがれ」や「願望」から努力がうまれ成長してほしいと願います。

ここで、審査員の評価の高かった作品七点について感想を記すことにします。

日本赤十字社社長賞

須賀川市立阿武隈小学校四年 矢吹 颯さんの作品

ドキッとする書き出しの作品です。

東日本大震災、原発事故が緑豊かな表土をはぎ取り、福島を「フクシマ」にしたのだと感じているのです。多くの人に僕が住んでいる福島の良いさを知ってほしいのです。僕の叫びが、いやいや僕たちの声が届いてほしいと願わずにはおれません。

日本赤十字社福島県支部長賞

白河市立表郷小学校二年 大久保 奏さんの作品

「だっこして」秀逸な作品です。

ほほえましい父と子の情景。読む人の心を温かく包んでくれます。

「はづかしいけど」「体がよろこぶよ」など心の動きをぴったりとした表現でいい詩になっています。

日本赤十字社福島県支部長賞

相馬市立日立木小学校一年 今村 清邦さんの作品

雨の中での植樹祭、泥んこになって植えた思い出と重なって、一年生と思えないしっかりした良い作品になりました。植えた木は、共に成長する今村さんを励ましてくれるに違いありません。

日本赤十字社福島県支部長賞

西郷村立西郷第二中学校三年 渡辺 紗弥さんの作品

東日本大震災は、さまざまな試練を与え続けています。今までとかく忘れがちだった「支え合う」ことの大切さを体験を通して学び「絆」の意味を実感し、親せきや近所の人々の温かさを作品にしています。

日本赤十字社福島県支部長賞

福島県立白河旭高等学校三年 磯貝渉太さんの作品

「挑戦に年齢はない」と教えてくれたのは、「彼」、親戚のおじいさんでした。尊敬と畏敬の気持ちを込めて、「彼」と書いています。新鮮で力のこもった作品です。きっと、あなたが飲める頃には素晴らしい彼の酒が届くのではないのでしょうか。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

会津坂下町立坂下中学校二年 桑原 希さんの作品

ボランティアという感覚ではなく、大好きな日本舞踊を見ていただけるという喜びが伝わってきます。老人ホームの人たちが、心待ちにしている慰問の日の様子が、とても素直に描けていて感動しました。

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

白河市立白河第二中学校一年 金澤 頼志さんの作品

風雪に耐えた小峰城の石垣が大震災の激しい揺れに崩れ落ちたニュースは、県民の大きな話題となりました。歴史の証人と

して、幾多の人がわたしを見つめて語りかけてくれた。そのことを作者は愛おしむように表現しています。詩情豊かな作品です。曲を付けて歌ってみたいね。

つぎに、これからの作品作りについて次の三点に気を付けてみてください。

一 この「詩・一〇〇文字」提案は、「書く活動」を通して、自分自身を見つめ直す良い機会です。まず、なにを書きたいのか、応募のテーマを決めてください。

二 一〇〇文字という限られた文字数の中で書きたい核心に迫る表現を工夫しましょう。感動したことをテーマにしたのであれば「私が感動したことは」などと書きだすことはないのです。「いのち」「愛」「感動」「ボランティア」などのことばを使わないで書いてみてください。

三 作品を書くあなたが、そこに登場することです。体験や経験から生まれた自分の思いを伝えることです。完成した作品は読み直したり周りの人に読んでもらったりして、思いが伝わったかどうか確かめてください。

おわりに、作品を寄せていただいた学校、指導にかかわってくださった先生方、そしてたくさん作品を寄せてくれた児童生徒の皆さんに対し、審査員一同心から感謝しお礼申し上げます。今後とも青少年赤十字活動を身近に感じ、実践することを通してさらに良い作品が生まれることを祈っています。

平成二十九年十一月 二次審査会にて

審査委員長 藤田 伸朔

青少年赤十字 詩・100文字提案作品 年度別応募状況

年 度	応 募 校 数				応 募 作 品 数			
	小学校	中学校	高等学校	合 計	小学校	中学校	高等学校	合 計
平成18年度	29	10	1	40	951	385	25	1,361
平成19年度	32	6	4	42	1,749	211	115	2,075
平成20年度	29	2	2	33	1,683	268	45	1,996
平成21年度	24	2	4	30	1,401	159	64	1,624
平成22年度	42	7	2	51	2,859	757	24	3,640
平成23年度	35	7	1	43	3,325	912	4	4,241
平成24年度	47	11	18	76	3,666	735	338	4,739
平成25年度	60	14	20	94	5,602	1,048	889	7,539
平成26年度	48	6	12	66	5,175	1,018	1,027	7,220
平成27年度	45	12	13	70	3,992	1,373	76	5,441
平成28年度	44	11	9	64	4,847	1,433	405	6,685
平成29年度	43	12	9	64	3,542	1,048	477	5,067

平成29年度 テーマ別応募作品数

	小学校	中学校	高等学校	合 計
いのちの詩・愛の詩	758	250	88	1,096
わたしのできるボランティア	1,187	266	120	1,573
福島・日本・世界のために…	910	333	153	1,396
わたしが感動したことば…	687	199	116	1,002
応募総数	3,542	1,048	477	5,067
応募校数	43	12	9	64

審査にご協力いただいた皆様（敬称略）

☆ 審査委員長（福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長）

○藤田 伸朔

☆ 審査委員（赤十字指導講師、青少年赤十字福島県指導者協議会長、福島県青少年赤十字賛助奉仕団員）

青田 富男	青山 邦夫	阿部 友紀	石井 幸男
鵜沼美枝子	遠藤さとみ	大山 郁	大和田博行
面川 孝子	春日 芳則	○川田 昌利	管野 孝司
木下 忠孝	小林 伸行	木幡 清明	○齋藤 吉成
佐藤 光男	佐藤 洋一	佐藤 吉則	鈴木 昭雄
○鈴木 進一	鈴木美津子	鈴木 英孝	鈴木 茂郎
鈴木 義人	高橋 光雄	武田 幸子	竹之下道子
田村 良江	角田 和弘	圓谷 厚子	鶴見 常夫
○中畑 満	野口 桂子	長谷川文之	菱沼 明美
○平田 州一	廣瀬 要人	福士 寛樹	福地 敏教
星 仁子	目黒美智子	皆川 晃	安田 悠子
山内 寿一	山口 彌代	山下 富夫	山寺 精吉
吉田 佳正	吉田和賀子	渡邊 勲	

（日本赤十字社福島県支部）
 統括参事
 総務課長兼組織振興課長
 参事兼組織振興課ボランティア係長
 組織振興課

高野 浩二
 岸波 庄一
 久保 芳宏
 佐藤 敦子
 土屋 悦男
 加藤美紀子

※○印…二次審査員

